

香南市産業振興計画  
推進分野別部会からの報告書

- 農林業部会 ..... 1 ～ 6 ページ
- 水産業部会 ..... 7 ～ 10 ページ
- 商業部会 ..... 11 ～ 15 ページ
- 工業部会 ..... 16 ～ 21 ページ
- 観光部会 ..... 22 ～ 27 ページ

## 令和7年度 第1回 香南市産業振興計画 農林業部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎石丸 典男	JA 高知県香美地区果樹部	出
2	○三谷 幸寛	香美森林組合	出
3	◇百田 念正	香南市認定農業者連絡協議会	出
4	◇百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	出
5	◇白石 浩一	JA 高知県香美地区香美営農 経済センター(営農指導課)	出
6	◇池本 翔太	JA 高知県香美地区ニラ部会	出
7	◇中村 正男	高知県中央東農業振興センター 農業改良普及課	出
8	◇山本 茂夫	香南市農業公社	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	久武 正和	農林水産課	出
4	澤村 龍哉	農林水産課	出
5	山本 芙世	商工観光課	出
6	小林 辰徳	企画財政課	出

## ☆ 当日の流れ

## 1. 開 会 (挨拶～自己紹介含む)

## 2. 部会長・副部会長の選出

部会長に石丸典男氏、副部会長には三谷幸寛氏を選出。

## 3. 人口推計に関する説明(企画財政課より)

## 4. 議 事

- ・第2期香南市産業振興計画 農業分野・林業分野の総括について
- ・第3期香南市産業振興計画 農林業分野の取り組みについて

## 5. その他

## 6. 閉 会

## ○ 第 2 期香南市産業振興計画 農業分野の総括について【PDCA】

### 【P】（目標値）

○ 第 2 期数値目標(R2～R6) : 『新規就農者数 50 人』

○ 実績値(R6年度末) : 『新規就農者数 45 人』

### 【D】（取り組み内容）

5年間での新規就農者数の目標 50 人に対し実績 45 人で B 評価となった。この実績値は新規参入と親元就農の合計数であり、内訳では毎年ほぼ偏りもない状況である。また、本指標には含まれていないが、雇用就農も毎年1人～2人前後おり、幅広いケースで就農している。この実績値は近隣市町村と比較しても大きく上回っており、就農相談件数も県内で上位の件数となっている。その要因としては、各種就農相談会等に参加し本市の PR を行っていることや、広範囲にわたる優良農地や利便性の良い住環境など本市の恵まれた立地条件等が実績にも繋がったと思われる。

また、新規就農者に対しては関係機関が連携を図り農地確保や営農指導、制度活用等で幅広くサポートしている。資材等の高騰により農業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、施設園芸が盛んな本市ではその傾向はより顕著であると言えるが、新規参入者には本市が整備する実践型研修ハウスの活用を促進し、親元就農者には、国県事業の要件に満たない者を市単独補助金により支援するなど、本市独自の取り組みも新規就農者の確保に貢献した。品目別では日本一の生産量を誇るニラでの就農者数がほぼ半数を占めており、次いで山北みかんとなっており、本市を代表する品目で新規就農者を確保しており、高齢化が進む産地において耕作放棄地の抑制、生産量の維持拡大に寄与した。

#### <具体的な取り組み>

##### ◆担い手確保に向けた取り組み(R2～R6)

- ・R2～R4 は新型コロナウイルスの影響で相談会の中止やリモート出展となったが、R5～R6 は県内外での就農相談会(れんけいこうち事業)や新・農業人フェア(大阪、東京)に4年ぶりに出展し事業の周知活動及び就農相談を実施した。
- ・新規就農者総合対策事業や担い手支援事業などの国・県事業から活用を検討し、また補助要件に満たない就農希望者も含め市単独事業でもサポートするなど、幅広い事業の活用で担い手の支援を行った。
- ・上記の事業実施により、ニラを中心にフルーツトマト、みかん、等の品目で担い手の確保に繋がった。

##### ◆経営改善・農地維持に向けた取り組み(R2～R6)

- ・園芸用ハウス整備事業では、JA や高知県中央東農業振興センターと連携し、新規就農者、規模拡大等を行う園芸農家に対し事業の活用推進を図った。

- ・園芸用ハウス等リノベーション事業では、県の補助金に上乗せを行うことで、環境測定装置や炭酸ガス発生機などの施設園芸に係る機器導入を推進し、省力化や収益性の向上に効果のある取り組みが実施できた。
- ・農産物の販売力の推進(みかん)について、関係団体との連携を図り、山北みかんの更なるブランディングを実施した。また青果や加工品の販売による農家所得の向上や首都圏でのイベントの開催等を通じて産地の PR 活動を行った。
- ・農産物の販売力の推進(ニラ)について、担い手確保に向けた新規就農者への支援や、そぐりセンターの積極的な活用を呼びかけ、産地としての生産量アップに努めた。
- ・中山間地域等直接支払事業及び多面的機能直接支払事業では、各地区の活動組織が交付金を活用し、水路、農道等の草刈りや泥上げ、補修・更新等を実施することで、耕作放棄地の発生防止や、農業生産活動の継続、農村環境の維持・保全に努めることができた。
- ・有害鳥獣被害対策実施事業及び有害鳥獣被害防止事業では、香南市猟友会や香我美狩猟クラブと連携を図り、有害鳥獣の駆除に努めた。また、シカ・イノシシの報償金の引き上げ(R5)による狩猟者の担い手確保や市単補助金による防護柵の設置を進め、被害(拡大)の防止に努めた。

#### ◆農業生産基盤の充実にに向けた取り組み(R2～R6)

- ・重油流出防止付燃料タンク整備事業では、市広報誌への掲載による周知や、園芸用ハウス整備事業を活用する加温品目を栽培する農業者に対し事業の活用推進を図ってきたが、農家負担や燃料販売事業者の負担等もあり実績が思うように伸びなかった。今後は災害に対する危機意識の向上も含め引き続き事業を推進していく。
- ・耕作条件改善事業では、地域からの要望も踏まえ、協議を行いながら順次実施してきた。

## 【C】(チェック/確認)

- 毎年多くの就農相談がある中で、家庭の事情や希望する品目、就農形態等の条件により活用できる事業が個々の相談者で異なることや、研修受入農家が見つからなければ事業そのものが活用できない現状がある。
- 地域計画の策定について、当初の目標設定時には順次地区ごとに策定していくことを想定していたが、関係機関との協議の中で、全地区で足並みを揃えることとした。そのため、令和 5～6 年度にかけて全地区で協議を重ね、令和 6 年度末で 18 地区全ての計画策定を完了。
- 有害鳥獣被害対策としての駆除及び防護柵設置の目標値に対し実績が下回っている。主な要因としては、豚熱の影響によるイノシシの減少が考えられるが、実績の減少が必ずしもマイナスの成果ではないことを確認した。

## 【A】（アクション /改善）

○JA や高知県中央東農業振興センターと連携し情報共有しながら各種事業の周知を図るとともに、研修段階からサポートしていくことで、相談者それぞれのビジョンにあった支援を行う。

○関係機関や農家と連携・情報共有を図り、研修受入農家の確保に努める。

○県内外の就農相談会等のイベントに出展し、UIターンでの就農希望者や地域おこし協力隊制度を活用したみかん研修生の確保に向け、継続的な本市の PR 活動に努める。

○地域計画の策定後においても、継続的に地域で話し合い地域の農地をどうやって守っていくかについて検討することが重要である。また、地域計画に位置づけられている経営体や農地が要件となる事業があることから、必要に応じて地域計画の見直しが必要である。

○流出防止付き燃料タンクは南海トラフ地震の二次災害として想定される重油流出のリスク軽減が図れることから、今後も普及に向けた継続した事業の周知が必要。また併せて、既存タンクの削減による重油代替暖房機(LPG ボイラー、木質バイオマスボイラーおよびヒートポンプ)の普及についても継続した事業の周知を行い、重油流出のリスク軽減・既存タンクの削減に努める。

## ○ 第 2 期香南市産業振興計画 林業分野の総括について 【PDCA】

### 【P】（目標値）

○ 第 2 期数値目標 (R2～R6) : 『 間伐面積 231ha 』

○ 実績値 (R6年度末) : 『 間伐面積 215.1ha 』

### 【D】（取り組み内容）

5年間での間伐面積の目標 231haに対し実績 215.1haで B 評価となった。この間伐事業につなげるために、まず市が主体となって森林所有者に対する意向調査を実施しており、この5年間では主に夜須町北部を中心に調査を行った。そして、地籍調査等が済んでいない不明瞭な境界について森林境界明確化事業を行い、境界を明らかにした上で、間伐を実施している。事業実施にあたっては香美森林組合と調整を図り、施業班の体制的にも可能な限りの間伐を実施してきた成果となっている。

また、木育事業に関しては、保・幼・小・中学校での森林体験学習や、乳幼児およびその保護者を対象としたファーストスプーン教室、森からの贈り物事業などを通じて子どもから大人まで幅広い世代への事業を展開し、木に親しむ機会の創出を図ってきた。

## ＜具体的な取り組み＞

### ◆意向調査の実施

- ・R2～R3 夜須町仲木屋      ・R4～R6 夜須町細川、沢谷

### ◆森林管理制度森林境界明確化委託事業

- ・R2～R4 夜須町仲木屋
- ・R5～R6 夜須町沢谷

### ◆間伐事業(保育・搬出間伐)

- ・R2 個人所有地にて、保育・搬出間伐を実施
- ・R3 香我美町別役・奥西川・撫川にて保育間伐を実施
- ・R4 夜須町沢谷・羽尾、香我美町撫川にて保育・搬出間伐を実施
- ・R5 香我美町上分・別役・撫川にて保育・搬出間伐を実施
- ・R6 夜須町沢谷にて保育間伐を実施、香我美町撫川・奥西川、夜須町仲木屋にて搬出間伐を実施

### ◆木育事業

- ①木育イベントの開催(ファーストスプーン教室等)
- ②保・幼・小・中学校での森林体験学習の実施
- ③木育事業全般に係る周知活動
- ④香南市の森からの贈り物事業
- ⑤市内の施設の香南市産材を活用した木製おもちゃの贈呈

## 【C】 (チェック/確認)

○意向調査については、森林所有者が県外在住となっている場合や相続が完了していない場合も多く、調査票を送付した際に、宛先不明で返ってくることや郵送して届いているが、未回答の森林所有者がいる。

○間伐事業(保育・搬出間伐)について、市補助金の申請面積にて集計をしており、この市の補助金は、県の造林補助金で採択された事業への上乗せ事業であるが、県への補助申請は12月末時点の実績で取りまとめをするため、実績としては、1月～12月までに完了している間伐の実施面積となっている。県の補助金の申請が、事後申請であることもあり、12月末時点で間伐途中の森林があった場合は、途中までの実績で精算せずに、その森林所有者の森林の間伐が全て完了してから、次年度に申請をするため、現場では間伐を行っているのに、補助金の申請としては、年度内に計上されず、当初の目標値を満たせない場合が発生している。令和2年度、令和3年度については、目標数値に対し、ほぼ同数値となっているが、令和4年度以降については、上記の要因もあり、目標に達しなかった。

○木育事業では保・幼でのイベントや体験が多く、小・中学校での実施があまりできていない。今後、実施できるよう年間スケジュールが決まる前に協議し、調整していくことが必要である。

## 【A】（アクション /改善）

○返送がない森林所有者については、今後も引き続き後追いをしながら、林業事業体と連携し、所有者特定に努め、次のステップである境界明確化事業につなげていく。

○間伐事業(保育・搬出間伐)では、令和5年度より、香美森林組合における施業班が1班体制から3班体制に体制強化され実施していることも含め、今後もしっかりと連携を図りながら間伐を進めていく。

○令和6年度からは、小学校・中学校に対し早い段階で木育事業の実施に向けた案内を行ったことで、これまで取り組みのなかった小学校(2校)での実施に至った。

## ○第3期香南市産業振興計画 農林業分野の取り組みについてご意見やご提案

### ◇ 農業部会と林業部会の一体化について

- 第3期より農林業部会となったが、第2期の最後で林業部会として、農業のイメージが強い本市の一次産業の中でも山の存在は農業にも欠かせない要素があることから、農業分野の方々にも広く林業を知ってもらい良い機会であると前向きな意見が挙がっていた。林業分野からみても農業分野の取り組みは知らないこともあり驚くことがあったが、林業分野としても航空レーザー測量など技術の進歩もあるので、今後一層林業を知ってもらい機会を作るなどのPRもしていきたい。

甫喜ヶ峰において森林公園に付随する県有林の間伐が令和6年度から実施されている。森林公園では道路やトイレ等の施設も整備されており、間伐を間近で見られることもあるため、ぜひ積極的にそういう場を活用してほしい(三谷委員)

- 林業の方に農業のことを知ってもらい機会にもなる。今後は情報共有など積極的に行うことで第3期の活発な取り組みにつなげていきたい(石丸委員)

## ○ 前回の部会や策定委員会でいただいたご意見やご提案について

該当なし

## ○ その他の取組について

- ◇ 様々な取り組みや本年度での直近の状況について情報交換、共有を図った。
  - ・ハウス整備と建設費用等の直近の動向、また県における香美地区の状況や香美市との比較等。
  - ・ニラの販売力強化に関連したそぐりセンターの活用について。
  - ・住宅の新築時における国産木材の活用状況や近隣市町村の補助制度について
  - ・鳥獣被害の近況について
  - ・米価高騰の状況下における今作の作付け状況について

## 令和7年度 第1回 香南市産業振興計画 水産業部会 報告書

## ◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎森 周平	高知県漁業協同組合 手結支所	出
2	○山下 太造	高知県漁業協同組合赤岡統括支所長	出
3	◇本田 和仁	赤岡パッチ組合船主会 会長	出
4	◇野村 操	吉川町パッチ網船主会 会長	出
5	◇岡西 美延	手結地区漁業者(シイラ漁)	出
6	◇山本 順	高知県水産振興部中央漁業指導所長	出
7	◇山下 樹徹	一般社団法人高知県漁業就業支援センター	欠
8	◇吉岡 みどり	(有)吉川水産 内水面養殖業者	出

	氏名	所属	出欠
1	小松 大洋	農林水産課	出
2	佐田 和章	農林水産課	出
3	川西 貴祥	農林水産課	出

## ☆ 当日の流れ

1. 開 会 (挨拶～自己紹介含む)
2. 部会長及び副部会長の選出
3. 議 事
  - ・第2期香南市産業振興計画 水産業分野の総括について
  - ・第3期香南市産業振興計画 水産業分野の取り組みについて
4. その他
  - 令和7年度スケジュール
5. 閉 会



## ○ 第 2 期香南市産業振興計画 水産業分野の総括について【PDCA】

### 【P】（目標値）

○ 第 2 期数値目標(R2～R6) : 『沿岸漁業総生産額 1,475 百万円』

○ 実績値(R6年度末) : 『沿岸漁業総生産額 1,353 百万円』

### 【D】（取り組み内容）

- 水産機能施設及び漁港施設の整備を行い、漁業者の円滑な漁業体制を維持していくことにより生産性の向上を図った。
- 漁船導入事業は(一社)高知県漁業就業支援センター及び希望漁業者と協議し支援に繋げることで、より機能が向上する漁船を活用し沿岸漁業総生産額へ繋げることができた。
- 魚価の向上は、自然状況により好不漁があるものの、R3 年度から不漁が続いたため平均単価が上昇したが、R6 年度は好漁であり、若干単価は減少したものの目標値は達成している。
- 学校給食の納入は R2 年度からかちりじゃこを給食センターへ納入できるよう調整を行い、香南市産を納入することができた。また、かちりじゃこ及びシイラの R6 年度の赤岡・吉川給食センターがこうなん給食センターへ統合となったため納入回数が減少したものの、かちりじゃこの回数は達成できた。
- 担い手の確保は各種制度の説明会やフェアの開催など(一社)高知県漁業就業支援センターとともに担い手の確保の活動を行ったことにより、目標を達成することができた。

### 【C】（チェック/確認）

- 数値目標である沿岸漁業総生産額 1,475 百万円に対し、実績値は 1,353 百万円となり目標達成には至らなかった(評価「B」)
- 新型コロナウイルスの影響により、外食産業や流通機関に大きく影響し、また、海水温の上昇、黒潮大蛇行による不漁が要因である。
- 設計業務等で追加調査が必要となり当該年度に実施できない年もあったものの、漁業関係者と協議し整

備することができた。また、漁港施設の整備は住吉漁港及び吉川漁港において、長寿命化工事を計画的に実施し今後も補助事業を活用して整備を進める。

- 高知県漁業協同組合手結支所の販売額において、R6 年度は好漁により水揚げが多く 1 匹での販売が多かったため、フィレに加工しての販売が減少した。

## 【A】（アクション /改善）

- 魚価の向上において、自然現象により好不漁は左右され平均単価は左右されるが、デジタル化等の導入により安定した漁獲量を確保していく必要がある。
- 手結支所の販売額において、冷凍品の品質向上や処理能力の向上により取扱量の増加できるような設備を導入し販路を拡大する。

## ○第3期香南市産業振興計画 水産業分野の取り組みについてご意見やご提案

### ◇ 担い手の確保

- 小中学校などで漁業に関する授業等により周知してはどうか。（森委員）
  - 令和 5 年度に小学生向けの DVD を作成し授業の中で使用してもらえるように教育委員会へ協議した。（事務局）
- 小中高生などの視点により子供たちが自分の視点で考えてみるということは重要ではないか。教育と水産業の掛け算して結びつけるようにして、遊び心を加えてみると新たな気付きがあるのでは。また、人のがんばりや汗をかいている部分を知ってもらうことがあってもいいのではないか。（山本委員）
  - 一次産業全てにおいて言えることですが、特に農業のアンケートでは重労働であるというマイナスイメージの結果が多いが、デジタル等を活用した体験をして見せ方も考えていく。
- 高校生が取材し DVD を作成してもらうことはどうか。高校生なら進路を考えるとと思うので、漁業についても選択肢の一つにならないか。（吉岡委員）
  - 今でなく未来を考えることもよい。また、城山高校や山田高校でもミッション形式でやっていた。

### ◇ 販売額向上について

- 漁業者の所得は水揚げして入札した時点で決まるため、そこを向上させる必要がある。（野村委員）
- 電子入札を取り入れることで他県や市外からも参加できる仕組みがあれば競争が生まれるが、漁業者の方の協力が必要であり、他県では伝馬船が複数の経営体を回って水揚げしているため、必ず 3 隻必要でないこともある。（山本委員）

- シイラの竹は購入する場合、1 本約 2 千円かかることもある、また、自分で切りに行ってもある程度まとまった本数があるため、ガソリンや人件費がかかるため、その辺りの補助があればうれしい。(岡西委員)
  - 省コスト化のため漁船レーダーの話が昨年度にあったため活用してほしい。(事務局)
  - 行政として出来ることをやっていくので、漁業関係者の声を聞かせてほしい。(事務局)
  
- 漁師から仲買人、消費者という販売ルートを把握しどのような課題があるか、また、仲買人が少ない中、漁協としてもどう考えるか、そこへ行政としてどう切り込むか、県漁協の県一構想などについても行政がもっと切り込んでこないといけないのではないか。(野村委員)
  - 販売ルートであったり仲買人であったり問題提起をすることが部会であり、行政として出来ることと出来ないことがある。出来ることをこの場で話し合っていきたい。

部会開催日:令和7年5月16日(金)10:00～11:30

場所:香南市役所本庁6階 604.605

## 令和7年度 第1回 香南市産業振興計画商業部会報告書

◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎岩神 小百合	岩神印刷株式会社 専務	出
2	○高橋 真紀子	香南市商工会 経営指導員	出
3	近森 美穂	合同会社 Benifare 業務執行社員	出
4	近森 大祐	株式会社一寿司会館 取締役	出
5	中村 文昭	中村時計店 代表	出
6	横山 昌幸	高知県事業承継・引継ぎ支援センター 統括責任者補佐	出
7	小松 孝	株式会社高知銀行 野市支店兼赤岡支店長	欠
8	豊永 拓也	高知県経営支援課 山崎委員代理出席	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	中屋 亜希子	商工観光課	出
3	藤原 奈央	商工観光課	出
4	山本 英世	商工観光課	出
5	野村 直弘	商工観光課	出

## ☆ 商業部会の開催内容

## 1. 開 会

## 2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔

## 3. 自己紹介

## 4. 部会長・副部会長の選出

## 5. 議題

(1) 第2期香南市産業振興計画商業分野の総括について

(2) 第3期香南市産業振興計画商業分野の取り組みについて(令和7年度)

(3) その他

## 6. その他

## 7. 閉 会

## ○第2期香南市産業振興計画商業分野の総括について【PDCA】

### 【P】（目標値）

数値目標	年度	基準値 (H30年度末)	R2	R3	R4	R5	R6	第2期 累計	第2期の 達成度合	備 考
商業者数 (事業所)	目標値	—	813	773	768	763	758	758	B	香南市商工会が毎年高知県へ報告している日本標準産業分類(大分類)のF～O・Q・Rに分類される事業所数。 H30年度に市商工会が高知県に報告を行った事業者数を基準値とし、そこから目標値の設定を行ったが、新型コロナウイルス感染症に関する周知等を行った際に、連絡が取れない等の事業者が見受けられたことから、R2年度に商工会による事業者の確認調査が実施された。 その結果、すでに廃業・店舗がなくなっている非会員事業者が多かったことがわかり、R3年度に数値目標を再設定。
	実績値	813	778	777	768	770	753	753		
	達成 (評価)	—	—	A	A	A	B		99.34%	
新規事務系企業数 (企業/年)	目標値	—	2	2	2	2	2	10	C	香南市内の空き店舗等を活用し、市内住民を雇用することを前提に、首都圏等から進出していただく新規事務系企業数。
	実績値	—	1	0	1	1	0	3		
	達成 (評価)	—	C	C	C	C	C		30.00%	

### 【D】（実行内容）

商業者数については、新型コロナウイルス感染症が5類移行となったこと等もあり、R5年度中の創業者が多く、一定維持することができていたが、令和6年度末時点では目標を下回る結果となった。

新規事務系企業数については、目標値には達成していないものの、4年間で3件の誘致に繋がり、市内における新規雇用、ひいては地域経済への波及効果ももたらすことができたと考え。

数値目標達成に向けた取り組みは以下のとおり。

#### ○空き店舗活用に向けた取り組み

- ・商店街等振興計画の策定については、市内回遊の仕組みづくりを目的とした「スイーツスタンプラリー」、中心市街地の魅力向上を目的とした「フジグラン野市とのコラボ企画」を実施した。
- ・空き店舗実態調査の実施については、R3年度から R4年度にかけて市内全域の空き店舗調査を実施し、実態の把握を行った。
- ・空き店舗バンク事業では、空き店舗バンクという形態ではないものの、市の HP へ空き店舗情報を掲載した。
- ・空き店舗等対策事業では、令和3・4年度に要綱改正を行い、R5年度以降、年3件補助金の利用があり、活用実績を伸ばすことができた。
- ・空き店舗等を活用した新規事務系企業の誘致では、関係機関や県等との連携により、5年間で計3件の新規事務系企業の誘致へ繋げることができた。

### ○担い手の確保に向けた取り組み

- ・事業承継の推進では、特に親族承継の件数が多く、目標達成することができた。
- ・香南市未来人材育成奨学金返還助成事業では、令和2年度に対象者拡充の要綱改正を行ったことで、認定申請者が増加し、令和3年度から令和6年度は継続的に新規認定を行うことができた。
- ・創業支援事業では、創業希望者に対する創業支援等事業計画の案内を適宜行ったが、令和3年度以降は認定実績がなかった。
- ・創業支援利子補給金事業では、創業向け融資を受けた創業者、8事業者(延べ11件の交付)に対して、資金繰りの面で支援することができた。

### ○商業支援

- ・中小企業者等保証料補給金事業では、令和4年度より対象融資の拡充を行ったが、利用件数が少ない状況が続いたこともあり、当初の予定通り、新規認定自体は令和6年度末までで終了とした。
- ・各種セミナーの開催では、市や商工会主催による事業者向けセミナーを開催し、経営者や従業員のスキルアップを図ることができた。
- ・香南カーニバル事業では、令和2年度から令和3年度に飲食店を中心に短期間のグルメイベント「香南カーニバル」を開催し、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた地元事業者の売上増加に繋げることができた。
- ・地場産品販売促進事業では、カタログ事業、ふるさと応援寄付金事業とともに、新規事業者の参画呼びかけや新商品、季節商品の充実を図ることで、新規顧客やリピーターの獲得に繋がり、事業者の売り上げに寄与することができた。
- ・住宅リフォーム推進事業では、住民への補助制度周知へ努め、利用率を上げることができた。

## 【C】（チェック/確認）

### ○空き店舗活用に向けた取り組み

- ・空き店舗バンク事業では、市のHPにて空き店舗情報の発信を一定行えるようになったが、掲載件数が少ない状況であるため、今後も、商工会や市内不動産会社と連携しながら市内空き店舗情報の集約に努める必要があると考える。
- ・空き店舗等を活用した新規事務系企業の誘致では、包括連携協定を締結しているイシン株式会社とも連携しながら取組を進めていく予定であるが、誘致するための空き店舗物件確保が課題となっている。先方ニーズ等も鑑みながら、状況に応じたアプローチを行っていく必要がある。

### ○担い手の確保に向けた取り組み

- ・事業承継の推進では、商工会での事業承継ヒアリングなどで適宜情報共有していただき、市とし新たに取り組むことのできる施策がないか検討していく必要がある。
- ・未来人材育成奨学金助成事業については、目標値25件に対して実績値13件となっている。目標値こそ達成できてはいないが、令和2年度に対象者拡充の要綱改正を行ったことで、令和3年度から令和6年度も継続的に新規認定をおこなうことができた。香南市在住で香南市の企業で働く方への補助金であ

り、今後の香南市の人材確保に大きく貢献できる事業のため、今後は HP や広報だけでなく、SNS 等も活用して若年者に事業内容が伝わるような周知活動が必要であると考えます。

・創業支援事業では、創業者にとって創業時に必要な経営・財務・人材育成・販路開拓に関する基礎等を取得し、持続可能な経営を行っていくための1つのツールとして、創業希望者への周知を図っていく必要がある。

## ○商業支援

- ・各種セミナーの開催では、事業者のニーズや時代に合わせたセミナーの開催を引き続き検討していく必要がある。
- ・住宅リフォーム推進事業では、開始から 10 年を経過しており、市内経済の発展に一定寄与す取組となったと考えており、令和8年度以降の事業継続については検討していく必要がある。

## 【A】（アクション /改善）

### ○空き店舗活用に向けた取り組み

・「香南市中心市街地活性化計画」については、引き続き、開催内容の磨き上げ、実行体制の強化を図りながら、地域内事業を主体として、地域商業の活性化に繋げていけるよう、取組を推進していく。

空き店舗等対策事業については、今後も、支援策の周知に努めるとともに、市商工会等と連携し、創業時の経営計画策定や手順等について支援を行い、空き店舗を活用した創業につなげていく。

### ○担い手の確保に向けた取り組み

・事業承継の推進については、事業承継に関する情報を市広報誌等を活用して発信することで、事業承継の取組に対する意欲向上を図る。また、今年度創設した「事業承継等推進事業費補助金」(高知県事業承継等推進事業費補助金と合わせた支援)の活用促進も図りながら、商工会や事業承継・引継ぎ支援センターとも連携し効果的な取組内容の検討をしていく。

香南市未来人材育成奨学金返還助成事業では、人口減少・市外への人材流出抑制のため、令和7年度より、助成対象者要件の緩和及び助成額等の拡充を行うことから、利用件数の増を見込んでいる。申請対象者が簡単に情報を取得できるよう、他課とも連携した事業周知の方法を検討していく。

### ○商業者支援

・地場産品販売促進事業について、今後も、イベント等での PR 活動を継続して実施していくとともに、EC サイトの内容拡充やふるさと納税関係事業者へのサポート等に努め、地元事業者の売上増を目指す。

## ○第 2 期香南市産業振興計画商業分野の総括についての意見・提案

・特になし

## ○第 3 期香南市産業振興計画 商業分野の取り組みについての意見・提案

### 【主な意見】

#### ◇ 未来人材育成奨学金支援助成事業について

- ・奨学金については、中学生の段階で、高校や大学などの今後の進路を話す際に話題に上がることもあるため、中学生についても周知を図っていただきたい。（近森美穂委員）

➢香我美中の政策提言の際に周知を図るとともに、校長会や中学校の進路指導、総合学習の際に周知を図っていく。（事務局）

## ○ その他意見や提案について

#### ◇事業承継について

- ・事業承継・引継ぎ支援センターの具体的な事例等を知りたい。（岩神部会長）

○昨年度の相談件数は 600 件（相談内訳：譲渡側：300 件、承継側：150 件、親族承継：150 件）あり、現在 1 番多い相談は、保健所の案件、保健所の営業許可を引継ぐ内容であり、特に北川村、室戸市、東洋町などの民泊の関係でこの案件が多くなっている。

香南市では、2 年間休止していた鮎の事業を引き継ぐという事例がある。また、国の専門機関として、テレビなどで引継ぎ支援センターの周知を行っていく予定。（横山委員）

○市の方でも、広報や HP に事業承継・引継ぎ支援センターについて掲載しており、商工会の会員を中心に事業承継の講演も実施した。（事務局）

#### ◇香南のいち IC の開通についてのご意見

- ・香南のいち IC が開通したことによる影響はないか。（事務局）

○県外のお客が増えたり、県内でも遠方のお客が増えた。（中村委員）

○配送で市外へ行く際の利便性が向上した。直接お客が来る事業者ではないため、事業への直接的な影響はない。（近森美穂委員）

○事業者から香南のいち IC 開通による影響の相談は特にない。（高橋副部会長）

#### ◇連続テレビ小説「あんぱん」放送開始についてのご意見

- ・「あんぱん」が放送開始したことによる影響はないか。（事務局）

○土佐弁の文字のポチ袋が好評。放送開始による影響かもしれない。現在、船への出店も行っているが、自転車を持ち込んでいる外国人の方もおるため、高知新港でレンタサイクルを行ってもよいのでは。（岩神部会長）

○ごめん・なはり線を利用する家族連れを見る機会が増えた。（中村委員）



部会開催日:令和7年4月24日(木)10:00～11:30

場所:香南市役所本庁3階304.305

## 令和7年度 第1回 香南市産業振興計画工業部会報告書

◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎岡本 隆晃	YAMAKIN株式会社 総務部 総務課長	出
2	○川口 久志	株式会社精工 KOCHI2020 工場 工場長	出
3	中谷 誠一	香南市商工会 工業部会長	出
4	南崎 宣也	四国職業能力開発大学附属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	出
5	前川 孝彦	公益財団法人高知県産業振興センター 地産地消・外商推進部 外商課長	出
6	森田 清史	香南市商工会 経営指導員	出
7	片岡 滋雄	丸三産業株式会社 香南工場 工場長	出
8	北 泰子	高知機型工業株式会社 取締役 副社長	出
9	鎌田 裕実	株式会社ミットヨ 高知工場	出
10	小川 和康	株式会社 東海理化 高知工場 Bamboo+カンパニー 室長	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	中屋 亜希子	商工観光課	出
3	藤原 奈央	商工観光課	出
4	山本 芙世	商工観光課	出
5	小松 雅史	商工観光課	出

## ☆ 工業部会の開催内容

## 1. 開 会

## 2. 挨拶 商工観光課長 萩野 大輔

## 3. 自己紹介

## 4. 部会長・副部会長の選出

## 5. 議題

(1) 第2期香南市産業振興計画工業分野の総括について

(2) 第3期香南市産業振興計画工業分野の取り組みについて(令和7年度)

(3) その他

## 6. その他

## 7. 閉 会

## ○ 第 2 期香南市産業振興計画工業分野の総括について【PDCA】

### 【P】（目標値）

数値目標	年度	基準値 (R元年度末)	R2	R3	R4	R5	R6	第2期 累計	第2期の 達成度合	備 考
製造品出荷額 (億円)	目標値	500	360	380	400	420	440	1,560	B	工業統計調査 (調査年は前年度の製造品出荷額) ※R元年工業統計結果(速報)の製造品出荷額344億円から、R2年度以降に操業開始を予定している企業の事業計画による見込みと、第2期からの支援施策による増加分を見込んだもの。
	実績値	344	344	380	295	387	-	1,406		
	達成 (評価)	B	B	A	B	B	-		90.13%	
新規雇用者数 (人)	目標値	-	5	8	19	16	15	63	A	市内立地企業に新たに雇用された市内在住の人数 ※立地企業の事業計画に基づく予定雇用者数の内、現在雇用している方を差し引いた人数の半数以上が地元雇用者と仮定し、地元雇用者数の70%を見込んだもの。 ※R2.R3年度の実績に齟齬があり修正。
	実績値	-	21	29	17	11	9	87		
	達成 (評価)	-	A	A	B	B	B		138.10%	

### 【D】（実行内容）

製造品出荷額については、R4年に大幅に落ち込んでいる。国・県に原因を確認したが特定は困難であった。しかし、R5年には実績額 387 億円となっており、R3 年度と同等まで実績が回復していることを国の経済構造実態調査により確認している。このことから R4年度の大幅な下落は統計上のミスであるものと予想される。R6年度については、経済構造調査の結果が未だ出ていないことから実績値は示していない。

新規雇用者数については 5 年間で 63 人の目標に対して実績値が 87 人となり、評価は A となった。新規事業開始に伴う前倒しでの雇用等の影響もあり、R2～3 年度の新規雇用者数の実数値が大幅に目標値を上回ったことから、目標達成となった。しかし、香南市内在住の方の割合が低いことや外国人材の雇用が正社員にはカウントできない等の課題もあることから、今後も雇用に対する継続的な支援が必要であると考え。

数値目標達成に向けた取り組みは以下のとおり。

#### ○企業誘致の促進

- ・新規工業団地整備事業については、再検証の結果、事業中止になり、地権者や関係機関に説明会を開催した。
- ・香南市企業立地促進事業費補助金については、補助金申請のあった2社ともに新工場が完成し、操業を開始し、要件を満たした後、補助金を交付した。また、企業説明会・面接会を開催し新工場での雇用の促進に努めた。

#### ○既存企業の育成・支援

- ・市内事業者への原油価格高騰対策として「原油価格等高騰対策給付金」を実施し、各種支援事業とあわせて、企業訪問等で周知を行った。

- ・県との合同企業説明会や城山高校への説明会開催等により、市内企業の人材確保に努めた。
- ・「未来人材育成奨学金助成事業」「産業人材育成事業」等補助事業の周知をものづくり会や広報等で周知し、補助金の活用を促した。
- ・工場見学ツアーを R4 年度より年に 1 度開催し、若者の地元定住に繋がる取り組みを実施することができた。

## 【C】（チェック/確認）

### ○企業誘致の促進に向けた取り組み

- ・香南市企業立地促進事業費補助金については、補助金申請のあった 2 社については、新工場が完成し、操業を開始している。R5 年度 2 社ともに補助金交付要件を満たし、補助金を交付している。  
また、操業予定であった企業 1 社が、コロナウイルスの影響及び物価高騰・設計の見直し等により、操業開始が延期となっており、現在操業開始時期が未定となっている。継続してヒアリングをおこない、現状把握に努める。

### ○「既存企業の育成・支援」についての取り組み

- ・商談会開催事業については、R2～R6 の 5 年間で、県内外併せて 253 件の商談会を実施した。R2・3 年度はコロナウイルス感染症の影響もあり対面での商談会の開催が難しく、目標件数の達成が出来ていないが、R4・5・6 年度はコロナの影響も少なく、目標件数を大きく超える開催ができたため、5 年間の商談会開催数としては目標値を達成している。  
商談会を通しての企業同士のマッチングは香南市の企業の受注拡大・販路拡大に大きく寄与することが予想されるため、第 3 期も継続しておこなう必要があると考える。

- ・中小企業者の生産性向上支援事業については、立地企業交流会及びものづくり会との合同交流会等で事業案内を行い、市内企業に対して周知活動を行ったが、R2～R6 年度の 5 年間で目標値 120 件に対して 53 件という結果になった。物価高騰による施設設備導入の見送り等で、新規計画認定件数が伸び悩んだことも要因の 1 つと考えられる。

補助金を活用いただいた企業に対して支援・補助ができたことは良かったと考えるが、交流会等に限らず、企業訪問も積極的に行い、周知活動の幅を広げる必要があると考える。なお R6 年度に本計画は期間延長の承認を受けている（現行：R8 年度末まで）

- ・産業人材育成事業については、R2～R6 年度の 5 年間で目標値 25 件に対して 21 件となっている。  
交流会等での事業周知により毎年申請をいただくことができ、市内企業の人材育成に寄与出来たものとするが、申請企業が偏っている現状もあり、今後は、多くの企業に活用いただけるように、より幅広い周知が必要である。
- ・未来人材育成奨学金助成事業については、目標値 25 件に対して実績値 13 件となっている。目標値こそ達成できてはいないが、R2 年度に対象者拡充の要綱改正をおこなったことで、R3～6 年度も継続的に

新規認定をおこなうことができた。

香南市在住で香南市の企業で働く方への補助金であり、今後の香南市の人材確保に大きく貢献できる事業のため、今後はHPや広報だけでなく、SNS等も活用して若年者に事業内容が伝わるような周知活動が必要であると考ええる。

- ・ 合同企業説明会の開催については、目標値 10 件に対して、実績値 10 件となっており目標達成となっている。県との合同企業説明会や城山高校への説明会開催等により、市内企業の人材確保に努めた。

県との合同企業説明会では直接、求職者や学生が企業の声聞くことができ、企業にとっても企業紹介の良い場になったが、開催の時期が 9 月だったこともあり、学生の参加が少なかったため、今後は、夏休みの時期や土日祝日での開催も視野に置いて検討する必要があると考える。

- ・ ものづくり教育推進事業については、R2～3 年度はコロナウイルス感染症の影響で実施を見送ることになったが、R4～6 年度は年 1 回、小学 4～6 年生を対象に香南市内の工場見学ツアーを実施することができた。今後の香南市の人口や就業率の増加を達成するうえで、小さい頃から香南市の仕事に触れることはとても重要であり、今後も継続していく必要があると考える。

また、企業が学校に訪問して企業説明を行う、体験型授業を催すなど、香南市の仕事を知ってもらうための新たな試みを検討することも必要である。

## 【A】（アクション / 改善）

### ○「企業誘致の促進」

今後、交付申請予定の 1 社については、補助金交付申請に向けて、ヒアリング等を行いながら連携し進めていく。また、新工場建設に向けて立地企業の雇用スケジュールにあわせて企業説明会・面接会を開催し、1 人でも多くの地元雇用に繋げる。

現状、新たに企業を誘致できる土地は確認できていないが、定期的な遊休地の情報等を確認・把握に努め、可能な範囲で受入体制を整える。

### ○「既存企業の育成・支援」

県主催の合同企業説明会や城山高校での合同企業説明会を開催し、企業の周知を図る。次年度より、説明会の開催を 2 回→3 回とし、より多くの企業に貢献できるよう努める。また、企業訪問等、企業の現状把握・状況改善に係る活動も積極的に行う。

各種支援事業の利用件数増加に繋がるよう、関係機関と連携して事業周知の強化に引き続き取り組んでいく。

工場見学については、30 人を目標参加人数とし、市の広報及び各小学校への呼びかけをおこないより多くの小学生に香南市のしごとを知ってもらえるよう努める。

## ○第 2 期香南市産業振興計画工業分野の総括についての意見・提案

特になし

## ○第 3 期香南市産業振興計画 工業分野の取り組みについての意見・提案

### 【主な意見】

#### ◇ 先端設備等導入事業費補助金について

・先端設備導入等計画については、会社が制作し、提出するという認識で間違いないか。また、国にも同じような補助金があったように記憶しているが、先端設備等導入事業費補助金は、その補助金等も併用できるのか。

➤先端設備等導入計画については、会社が作成し、提出するという認識で間違いない。  
また先端設備等導入事業費補助金については、併用に関する禁止の規定等はないので、  
ご活用していただいて構わない。

## ○ その他意見や提案について

#### ◇物価上昇の対応策について（委員から参加委員への質問）

・物価の上昇等が近年問題視されているが、対応策等は検討しているか。

○原材料費が上がってきているため、値上げすることで対応している。また人件費も  
県内の水準を考慮し決定している。

○継続的な値上がりに対応するために、次の計画を立案しているところである。

○目標の原価が定めていることもあり、物価の上昇等もあるがその他で少し費用が  
低減するような活動をおこなっている。

○業種の関係で、物価高に合わせて値上げするというのが、なかなか難しい。

○物価高騰により、原料の輸入費用も増加し、年々、加工費用も増加しているので、  
積極的な値上げをさせていただいている状況にはなっている。 等

#### ◇人手不足の現状への対応策について（委員から参加委員への質問）

・人材不足は喫緊の課題になっていると思うが、会社としての今後の方向性はどうか。

○応募は続いている状態ではあるが、南国市等に比べて香南市は立地面で人材が集まりにく  
い傾向にはあると思う。雇用の増加を図るために様々な雇用形態を視野に入れて進めてい  
るところである。

○人員については、目標の人数に達しているが、人員構成の見直し等を図っている。5 ヶ年  
の中期経営計画を立てて、構成人数の中の技術職の割合を増やし、省人・省略化をおこな  
う予定である。社員の高齢化も進んでいるため、定期的に新入社員を採用する事を決めて  
いるが、その中でも業務効率を落とさないということを心掛けている。

- 生産に関しては、協力会社へ委託する形になるが、生産量に合わせて、限られた人員の中でやりくりすることになると思う。いかに無駄を排除し効率よく取り組めるかというところが肝に なると思う。
- 人数は充分だが、やはり人員構成の高齢化が進んでいる現状はある。20代～30代の世代を増やしていきたい。設備投資で機械化し、少ない人員でも仕事ができるように進めていく可能性も十分にある。
- 各工程で、小さな改善を積み重ねて生産性を高め、何とか人材不足をカバーしていく。
- 学校への案内、学校の先生に企業を知ってもらうことが、大切だと思い力を入れている。実際に会社を見学していただくような取り組みを通じて、今年度も相当数の応募があるようには努めていきたい。

#### ◇高規格道路（南国・安芸道路）の開通についてのご意見

- ・高規格道路も開通（延長）して、高知市方面から通勤している人はありがたいと思う。これを機に香我美ICの降り口付近にも工業団地としての案内看板を設置してはどうか。
  - 物流面で、野市インターで降りるより、そのまま香我美ICまで行った方が時間短縮になることを考慮してのご意見と認識している。高規格道路の降り口であれば、国の所有地となるため難しいところがある。しかし、市としても協力できる部分があるかと思うので、その点については場所の選定等も含めて、検討していきたい。

## 令和7年度 第1回 香南市産業振興計画推進 観光部会 報告書

◇ 部会委員 ◎ 部会長 ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎梶原 英正	井上ワイナリー株式会社 香南市観光協会	出
2	○岡林 順子	創造広場「アクトランド」	出
3	中岡 誠二	高知県のいち動物公園協会	出
4	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
5	藤松 吾郎	絵金蔵	出
6	阪部 一仁	(株)ヤ・シィ	出
7	永野 裕介	土佐くろしお鉄道株式会社	欠
8	山本 浩一	リゾートホテル海辺の果樹園	欠
9	濱渦 ゆかり	物部川 DMO 協議会	出
10	大崎 優	高知大学次世代地域創造センター 高知県サイクリング協会	出
11	横田 忠明	ネットヨタ南国株式会社 (四国自動車博物館運営者)	出

	氏名	所属	出欠
1	萩野 大輔	商工観光課	出
2	中屋 亜希子	商工観光課	出
3	山本 英世	商工観光課	出
4	平尾 智美	商工観光課	出
5	小林 辰徳	企画財政課	出

## ☆ 当日の流れ

1. 開 会 (挨拶～自己紹介含む)
2. 議 事
  - ・第2期香南市産業振興計画 観光分野の総括について
  - ・第3期香南市産業振興計画 観光分野の取り組みについて
3. その他
4. 閉 会

## ○ 第 2 期香南市産業振興計画 観光分野の総括について【PDCA】

### 【P】（目標値）

#### 第 2 期数値目標 (R2～R6)

数値目標	年度	基準値 (R元年末)	R2	R3	R4	R5	R6	第2期 累計	第2期の 達成度合	備 考
観光施設入込客数 (万人)	目標値	120	107	110	114	117	121	569	B	観光庁の「観光客入込客統計に関する 共通基準」に該当する下記対象施設の 入込客数。 (暦年 1～12月の合計) 【対象10施設】合計 ①県立のいち動物公園 ②月見山子どもの森 ③ヤ・シィパーク ④絵金蔵 ⑤天然色市場 ⑥やすらぎ市 ⑦あぐりのさと ⑧黒潮温泉 ⑨創造広場「アクトランド」 ⑩土佐カントリークラブ
	実績値	104.5	90.7	96.2	102.2	101.8	98.3	489.2		
	達成 (評価)	B (※11 施設)	B	B	B	B	B		85.98%	

### 【D】（取り組み内容）

#### ○情報発信手段の効果的な活用

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で出店ができていない期間もあったが、令和 5 年度からは高知新港への寄港船の増加や日曜市出店の PR 機会を活かして、誘客促進や販路拡大に繋がるよう取り組んだ。
- ・ 令和 3 年度に HP の改修を行い、スマートフォン等で閲覧しやすくした。また、特設ページの作成やイベント情報の充実に取り組み、SNS においてもこまめな情報発信と HP への誘導といった取り組みを行った。

#### ○核となる観光拠点の形成

- ・ 道の駅、ヤ・シィパークでは、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントの中止や縮小により、入込客数に影響したが、令和 3 年度末に駐車場及びレンタサイクル施設を整備し、令和 4 年度にレンタサイクル事業を開始やキャンペーンに参加するなどして誘客促進に努めた。
- ・ mana★mana では、販路拡大の商談会への参加し、売上増加に努め、SNS での情報発信を強化した。
- ・ 井上ワイナリー(株)のいち醸造所が令和 4 年 4 月 29 日にオープンし、各種コンクールで入賞したことで、ブランドの確立に繋がっている。

#### ○広域観光の推進

- ・ 各種商談会への参加や閑散期における誘客促進事業を行った。また、連続テレビ小説「あんぱん」の放送決定により、やなせたかし氏のゆかりの地である物部川エリアでの連携と高知ものべがわエリア観光博「ものべすと」の機運醸成を図った。

#### ○スポーツツーリズムの推進



- ・ サイクルイベントの参加人数では、健康サイクリングやタンデム自転車講習会などを実施し、令和 6 年度には、高規格道路開通イベントや 3 市を巡るものべすと周遊ライドを実施することができた。
- ・ 塩の道の活用では 30 km うおーくでは新たに 20 km コースを追加し、参加しやすくした。また、トレイルランニングレースでは夜須町の塩の道を開拓して実施した。
- ・ マリンスポーツ体験では、新型コロナウイルス感染症の影響で県内からの利用が増えた年度もあった。

### 〇おもてなしの向上

- ・ 連続テレビ小説「らんまん」の効果があつた令和 4 年度、令和 5 年度は香南市周遊花めぐりバスのガイドを務めた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の終息後の外国人観光客の回復を見込んで研修の実施に取り組んだ。
- ・ 物部川エリアでのアンケート調査を実施した。

## 【C】（チェック/確認）

観光施設入込客数は累計 448 万人に対し、実績値 390.9 万人であり、達成率 87.25%となった。

令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症の影響があり、目標は達成することができなかったが、落ち込んだ観光客の回復のために市独自のキャンペーンの実施や県が実施したトク割キャンペーンにより、近隣他県からの誘客や県内観光客の誘客促進につながった。

また、各種特設ページの開設、SNS での情報発信を活発に行い、多様な情報を届けることができた。

令和 5 年度からは、外国船寄港の増加、台湾からの定期チャーター便が定着するなど、外国人観光客の増加に伴い受入体制の強化が必要となっている。

令和 6 年度は、猛暑や南海トラフ地震臨時情報の発表が影響し、屋外施設や沿岸部の施設で観光入込客数が減少した。

連続テレビ小説「あんぱん」放送開始や高知ものべがわエリア観光博「ものべすと」が令和 7 年 3 月 29 日に開幕し、視聴世代であるシニア層やファミリー層がゆかりのある物部川エリアへの来訪やアクトファクトリーがオープンして新たな観光拠点が増えたことなど、観光客の増加が見込める機運が高まっていることから、適切な情報発信と受入環境を整えることで魅力を感じてもらい、周遊促進・滞在延長やリピーターに繋げていく取組が必要である。

### 〇情報発信手段の効果的な活用

- ・ ふるさと納税参画事業者にも出店機会を周知し、商品の PR に繋がった。
- ・ こまめな HP の更新や情報発信により、HP アクセス数の増加、フォロワー数の増加となり、継続的に香南市の情報を受け取る人を増やすことができた。

### 〇核となる観光拠点の形成

- ・ イベントの再開などにより、入込客数の回復も見られたが、空き店舗の解消などの課題がある。
- ・ mana★mana では、商談会への参加等により、徐々に売上を伸ばしたが、人員体制に課題がある。
- ・ ワインの需要に対して、ぶどうの栽培量が追いついていないことから圃場拡大に努めており、醸造所への

来店者数を増やす取り組みを行う必要がある。

### ○広域観光の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響や各施設の休館期間があったことなどから入込客数は伸び悩んだが、商談会への参加や閑散期の誘客促進事業により、徐々に入込客数を伸ばしている。各事業所と連携した周遊促進、観光客の増加に寄与する取組を連携して行っていく必要がある。

### ○スポーツツーリズムの推進

- ・ サイクルイベントの参加人数では、実施主体団体の解散により、イベント開催に至らなかったことや雨天中止などもあったが、高規格道路開通イベントや 3 市を巡るものべすと周遊ライドの実施により、市外からの誘客につなげ、「自転車のまち香南市」を印象づけることができた。
- ・ 塩の道の活用では 30 km 圏内では満員となっており、トレイルランニングレースでは新たな地域の魅力を発信することにつながった。継続して取り組むことで、地域の魅力を県内外の参加者に伝えていく。
- ・ マリンスポーツ体験では、人員体制の課題により、十分な受け入れができなかったことや猛暑など自然環境の影響も受けたため、人員体制の改善が必要となっている。

### ○おもてなしの向上

- ・ 香南市案内人会は高齢化などにより会員数の減少が続いているが、香南市周遊花めぐりバスのガイドは好評であり、魅力を伝えることに貢献している。活動できる会員を増やす取組が必要となっている。
- ・ 多くの事業者が研修に参加し、実際の受入に寄与している。
- ・ 満足度の向上や入込客数の増加に努めた。

## 【A】（アクション /改善）

### ○情報発信手段の効果的な活用

- ・ クルーズ船の外国人観光客にわかりやすい表記となるよう外国語表記のパンフレットや POP を増やし、積極的に出店を行う。
- ・ 継続してタイムリーな情報発信に努め、季節の風景を掲載するなど香南市の魅力発信を行う。

### ○核となる観光拠点の形成

- ・ 道の駅全体で売上高の強化を目指し、mana★mana では観光客向けメニューを導入していくと共に人員体制を整えていく。
- ・ 圃場拡大や食品部門の強化、三宝山エリアにある観光施設と連携して周遊観光の仕組みづくりに取り組む。

### ○広域観光の推進

- ・ 物部川エリアでの観光博覧会の開催もあり、それぞれの取組を広く広報し、入込客数を増加させる。

### ○スポーツツーリズムの推進

- ・ サイクルイベントでは「ものべすと周遊ライド」をパワーアップして開催し、市内外のサイクリストの誘客増を

図る。また、新規に「障がい者自転車体験会」を開催する。

- ・ 30 km 圏内の一環の取り組みを継続する。また、トレイルランニングレースにはおいては、参加者と開催地域との交流を増やし、地域振興や活性化を図る。
- ・ マリン体験の受け入れに向けた人員体制を整え、ヤ・シィパークと連携した事業を実施する。

#### ○おもてなしの向上

- ・ 香南市案内人会の取り組みとして、高知ものべがわエリア観光博「ものべすと」の主要施設周辺のガイドや案内の研修を実施する。
- ・ 外国人観光客のみを対象とした研修から、障がい者や高齢者、子ども連れファミリー層といった多様な観光客を受け入れられる人材育成に向けた研修を実施する。
- ・ アンケート調査を引き続き実施し、満足度や観光消費額、観光客の傾向を見て観光客誘客促進に繋げる。

### ○第3期香南市産業振興計画 観光分野の取り組みについてご意見やご提案

#### ◇ 数値目標について

- 観光分野の数値目標が観光客入込客数になっているのは検討の余地があると思う。国の方でもデジタルデータを使った入込客数をオープンデータで公表されているので、参考値として別の指標も見えていった方がより良いと思う。(大崎委員)
  - ▷ 他の指標で測るべきところもあり、入れることも検討はしたがアンケートなど指標を取るのに費用がかかることもあって、県や物部川 DMO 協議会でも調査をしていただいている部分ではかかっていきたい。見えにくいものは利用いただいたお客さんにアンケートをして、満足度を上げるようなものを指標とすることを検討したい。(事務局)

#### ◇ インバウンドについて

- 香南市にどのくらい流れているのか指標を取ることは難しいのか、可能なのか教えてほしい。(横田委員)
  - ▷ ものべすとの取組で外国人の宿泊者数と入込客数を取れる施設は取っていただくようお願いしている。(濱渦委員)
- 外国人に対して船の中で高知県内の観光施設の説明があると思うが、香南市が入っていないのか、案内はしているけどこのエリアに外国人が行きたい場所がないのか、現状は。(横田委員)
  - ▷ 物部川 DMO 協議会でクルーズ船の商談会へは参加している。県が取りまとめをしているが、基本的に停泊して 1 日で行って帰って来られるところを選ばれる傾向がある。(濱渦委員)

### ○ その他の取組について

#### ◇ SNS のフォロワー数について

- (第 2 期で) 目標の上方修正している SNS を活用した情報発信にについて、かなりの勢いで年間伸びて

いるが、どういった投稿したときに伸びていて、フォローしてくれる人は香南市のどういう内容に興味があるか教えてほしい。(梶原部会長)

▷フォローする人が何を求めているかによる。フォロワー数が伸びたときはいつかわからないが、イベント情報を掲載すると見られることが多く、内容の詳細がチラシだけではわかりにくいときに SNS で発信するとアクセスしてもらえたと思う。(弘瀬委員)

#### ◇ 未来人材育成奨学金返還助成事業

- 大学で宣伝された方がいいのでは。(大崎委員)

▷担当の方から県内大学の方にセールスさせていただきたい(事務局)